

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

若手後継者の本音／丸山昭博さん

監査室だより

健全な組織運営のための手法

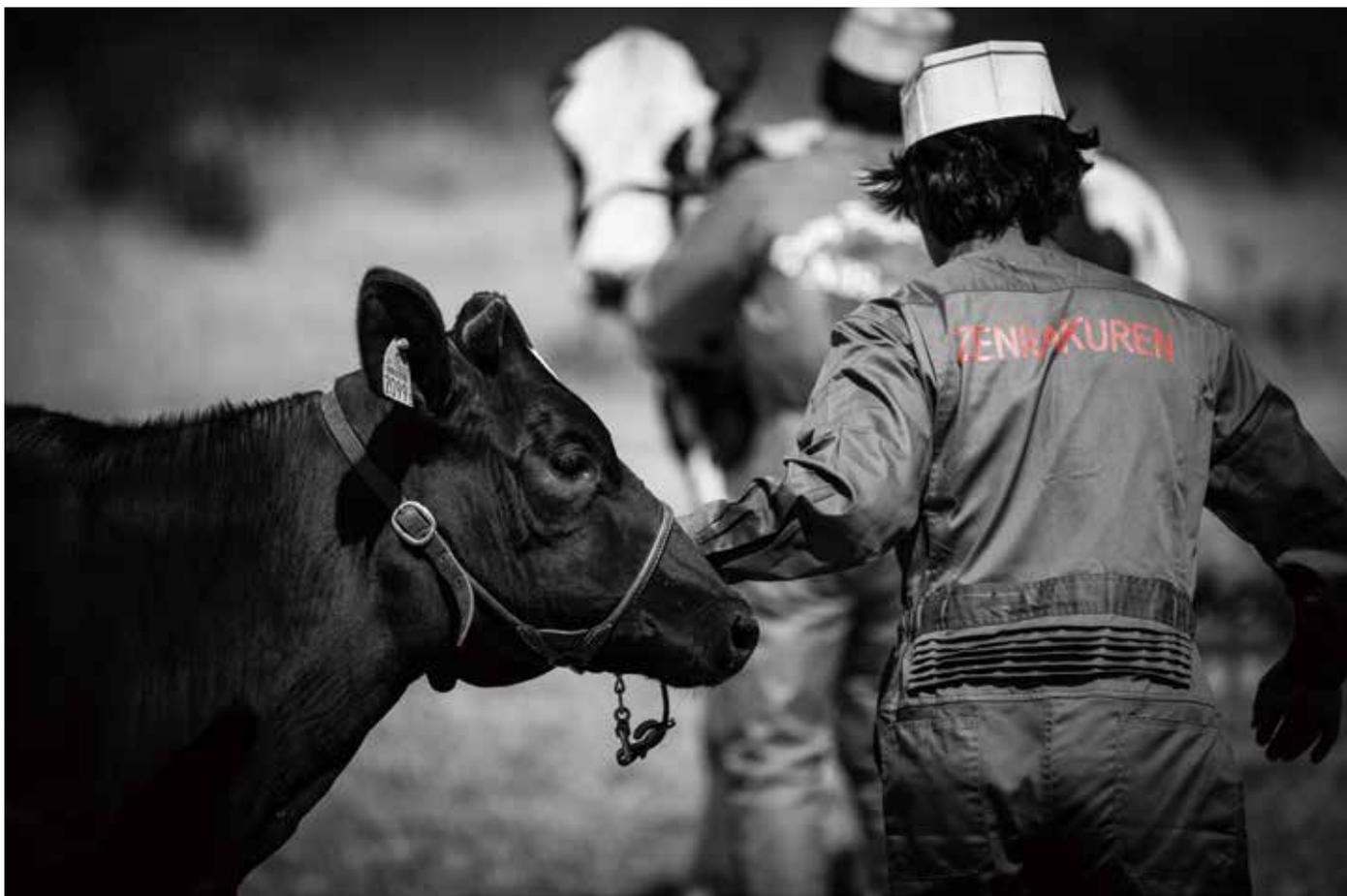
組合が取り組む後継者支援事業
(福岡支所管内)



人事異動



酪農トピックス/
復興牧場安全祈願祭&報道記者発表会を開催(福島県酪農協より)ほか
酪農業に対する理解を深めてもらうべく、PR活動を行います!
日本酪農見て歩紀(栃木県那須町 薄葉恒夫牧場)



10

2014 October No.589



全国酪農業協同組合連合会



若手後継者の 本音 Vol.10

ホンネ

自分の存在価値を求めて！ 日本一のジャージー酪農家へ

今回は、**岡山県真庭市 丸山牧場**の後継者
丸山昭博さんにお話を伺いました。



【経営概況】

所 属 おかやま酪農業協同組合
家族構成 経営主の昭博さん(41歳)、奥様の都々子さん(42歳)、お子さんの心さん(中3)、雅さん(中1)、お父さんの貞美さん(71歳)、お母さんの俊子さん(68歳)
飼養頭数 経産牛80頭、育成牛25頭

経営概況、家族の役割

丸山牧場は、おかやま酪農業協同組合に所属しており、現経営者の丸山昭博さん(41歳)は、24歳の時にUターン就農をし、17年目となっています。畜種は勿論全頭ジャージー種で、経産牛80頭、育成牛25頭の経営をされています。牧場の仕事は、妻の都々子さん(42歳)が哺育と搾乳を担当し、昭博さんは自給飼料作り、TMR調整や搾乳等を担っており、ご家族は、心さん(中3)と雅さん(中1)、ご両親の貞美さん(71歳)と俊子さん(68歳)です。

蒜山地区は、自給飼料生産が盛んで、丸山牧場はチモシー主体の飼料作付を行っており、4haのトウモロコシを含め、総面積27haの栽培を行っているそうです。今年は、1番草は低温に悩まされ、2番・3番草は降雨の日が多く適期の刈取りに苦慮したそうです。また、この地域の酪農家は蒜山酪農協を組織しており、昭博さんは、この組合の理事を努めると共に、日本ジャージー登録協会の監事の重責も担っておられます。

就農するまでの経緯と経過

昭博さんは、理工系の大学を卒業後、関東の企業に就職されたそうですが、多数の人材

が競い合う職場を目の当たりにして、自分の存在価値を求めて蒜山に戻ることを決意されたとのこと。

実家では、実父である貞美さんが20頭規模の経営をされていましたが、酪農に一人取り組む昭博さんに対し酪農仲間から、飼養管理等のアドバイスや、時には牛1頭もついで！と声を掛けてもらったり、いろいろ助けられたと懐かしそうに回顧されていました。当初は、地元の工務店勤務のかたわらに家業の手伝いを経て、次のステップを思案されたようです。

就農しての感想

昭博さんは、蒜山地域の特性を活かした日本一のジャージー酪農を実現すると心に秘めて、平成13年に国の補助事業を活用し規模拡大を図りました。当時は、ジャージー牛乳やヨーグルト販売の好調で酪農環境が良く、スローライフに憧れていたようですが、酪農が一般的にピークに差し掛かっているとは露知らず、その後は右肩下がりと転換していくこととなりました。また、規模拡大を実現すると、牛群に疾病が発生して経営的に厳しい時期もあり、とても憧れたスローライフとはいかなかったと振り返られておられました。

経営管理面で重視している事項

一番重視していることは、牛が快適であること、所謂、カウコンフォートの実現で、水・風・ベッドの3点にこだわっています。この点を実現していれば、シャーシー種は食欲旺盛なので心配いらないうことです。発情は発見が比較的簡単で、種付け回数も1.5〜1.6回、分娩間隔も380日を実現、しかも生乳生産量は年間7.300kgと自信をもっております。

簡単におっしゃられていましたが、この裏には豊富な自給飼料があり、搾乳牛には年間



牛舎設備全景



搾乳牛にエサ寄せ中

を通してデントコーンと一番草を給餌することが出来る環境にあるからこそと思います。

今後の目標と酪農に対する思い

「ご自身の経営の目標は、個体乳量年間8,000kgの牛群を作りたいと先を見据えておられますが、これ以上に熱がこもったお話を伺いました。それは、地域の後継者問題でした。蒜山高原では、酪農が地域資源として位置づけられており、これを守ることが大切、と話されていました。牧歌的で、見渡す限りの牧草地という風景の保全が、酪農家だけでなく、この地で生活をしているあらゆる業種の人に係わりを持っていて、

次世代に引き継ぐべき文化であると感じています。このことは、酪農が継続できる環境が蒜山には整っていることに繋がる。環境が整っていても、酪農をする人が育たないと途切れてしまうことになる。TPPや輸入飼料の高騰など課題はあるが、酪農をしたいと思う人からそのチャンスを奪ってしまうような要因を取り除いてやりたい。どの業種も切磋琢磨は当たり前

丸山さんより

全国の若手後継者の皆さんへ一言!

毎日の激務お疲れ様です。酪農は色々なスタイルがあり、地域、個々の牧場で色々な特徴がある産業だと思います。私の地域では、三白産業といって、米、大根、牛乳が地域の基幹農作物となっております。もちろんこれらの産業は、地域の人たちの理解がなくては行うことが出来得ないことと思います。現在では、私たち酪農家が土地の保全を行わなければ、耕作放棄地は増え続け、先代、先々代が鍬や鋤で土地を守ってきたことがすべて無駄になってしまうという現状が多く地域で起こっていると思います。地域の方々と持ちつ持たれつのか関係を崩すことなく酪農経営を持続させることが非常に大切だと思います。40歳を過ぎて“感謝”という言葉が常に頭に浮かぶようになりました。皆さんも常に頭に何かの言葉を浮かべてみてください。

そしてこの難局を力を共にして乗り越えましょう。まだ見ぬ未来を信じて…。



で、経営は常によくしていく努力が大切である。酪農は夢のある仕事で、夢を実現する後押しをしていきたい」と語られました。

健全な 組織運営のための手法

「今どんな担当じゃいるの？」
「監査です」というと先輩の方から「警察とか憲兵？みたいな仕事だね」と言われたことがあります。

どのような事をイメージしてそのように言われたのか分かりませんが、監査の仕事は不正発見や取り締まり捜査をするのが本来の仕事ではありません。

内部監査は組織の本来の機能や能力を最大限に高め、組織目的を達成するために経営者(執行側)によって行われる、内部統制を補助するものです。

監査する方もされる方も同じ組織の人間であり、相手を被疑者と見なし、信用できないという前提で行われる行為ではありません。

とはいえ、確かに日常生活の会話や思考において監査人の役目上の性さがのようなものが出てきていると感じる時があります。

絵画鑑賞と監査

監査の仕事の例えとして、壁に絵を掛けるときに、離れた所から見ると、絵を掛けている人に、絵が右側に傾いているなどを教えるような仕事と表す人がいます。しかし、最初からストレートに「右側に少し傾いているよ」とは言わず、「この絵を少し右に傾けているのはどうですか?」というような聞き方になってしまいます。平行だと思っていて、単純ミスで傾いて掛けているのではなく、その絵は本来の奥行きを高めるためにわざと右に傾けて掛けているというような可能性もゼロではありませんか

ら。しかし、右に傾いていると思った当の本人の首が右に傾いていてはどうしようもありません。

ロックと監査

エンジンビンビントクトク回っていればトクトク「業績さえ好調なら」オイル漏れなどトクトク気にしないぜトクトク(取り返しのない大惨事につながる兆候)は気にしなくてもいい……というわけにはいきません。

「なぜそんなにリスクの高いことを行うのか?」「教習所で習ったはずの始業点検は行わないのか?」「こんなことを考えるとロッ

クも楽しめなくなってしまう。これは仕事柄というより年のせいかもしれません。

演歌と監査

♪泣いた私が悪いのか、泣かせたあなたが悪いのか？

このような台詞を聞くと、不正を行なった私が悪いのか、不正ができる状況を許してしまったあなた(会社)がわるいのか？という状況を連想してしまいます。

不正を行った場合は、当然本人が罪に問われて、法の裁きを受ける事もあるでしょう。しかし、組織内部の議論は別にすると、世間では泣いた私(不正を行った側)より泣かせたあなた(組織側)に多くの冷たい目が向けられる事になります。

スポーツと監査

スポーツの大会でよく言われるのが、「強いチームが勝つのではない」、「勝ったチームが強いのだ」ということです。

これに関しては、「悪い奴が不正を起こすのではない」「不正を起こした奴が悪い奴なのか？」と考えてしまいます。悪い人がすべ

て不正を行うとは限りません。隙あらば、とやりたくてうずうずしていても、チャンスが無いだけかもしれません。しかしこれも、「不正を行った奴が悪い奴で、その悪い奴の仕業である」ではなく、内部管理態勢が不十分だった、チェック機能がなかった側の方が悪かったという世間の見方になります。

不祥事、不正薬物使用と監査

不正薬物中毒や世間をにぎわす不祥事、不正もほんの些細な最初の1回目がすべてだと言います。その、些細な最初の1回(これはあくまで試しだ、このぐらいいは判らない、ばれない、チェックされない、すぐ後でつじつまを合わせることができる、いつでもやめられる、絶対この1回だけで止める)で後に戻れなくなったというケースがほとんどです。ですから組織としては、すぐばれる、懲罰される、失うものがあるとしてその行為を思いとどまらせて、些細な1回目の行為をさせないために、他人の目が必ず入る、チェック、仕組み、ルールを作ることが不祥事防止の第一歩です。

世界中の監査人の中には超能力を持った人が存在しているかもしれませんが、ほとん

どは普通の人です。しかし、その普通の人でも、伝票、伺い、帳票、書類を何気なくパラパラマンガのようにめくって見て、不思議なことにパタッと止まってしまう場所に遭遇することがあるのも事実です。そして、そのパタッと止まった場所から指摘につながるような事例が見つかることはよくあることです。

大げさですが、「天網恢恢疎にして漏らさず」のことわざは今でも生きています。残念ながら現実には、本来チェックすべき人が、パラパラマンガのような事さえ行っているれば防げたという事象が世の中からなくなりません。

いずれにせよ、組織内をきちんと統制のとれた状態にしておくことが、健全な組織運営に非常に重要だということです。



組合が取り組む

後継者支援事業

第1回

酪農後継者塾

福岡支所管内

弊会では、2013年より「後継者支援チーム」を結成し、若手後継者に対する支援事業を行っています。組合においても、若手後継者に対し、婚活事業や勉強会・研修会などの支援事業に取り組み、今月から各組合の後継者支援事業の取組についてご紹介させていただきます。なお、行事開催時期に取材を行う関係上、不定期掲載となりますことをご了承ください。第1回目となる今回は福岡支所管内のご紹介です。

今回は、鹿児島県酪農農業協同組合(以下、鹿児島県酪)管内で行われている「酪農後継者塾」をご紹介します。

酪農後継者塾は鹿児島県酪が平

成25年度に打ち出した指導事業の組織強化対策の一環として、後継者育成を目的に昨年度より開催されております。

本年度も昨年に続き、後継者により高度化・複雑化する最新の飼養管理技術を取得してもらうために、県青壮年会議と共催し、9月8日(月)、大隅地区(支所)を皮切りに県内5会場で開催されました。

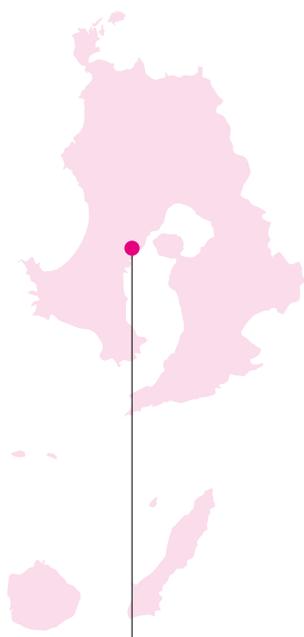
酪農後継者塾の大きな特徴は、単なる一方的な講義ではなく、参加者全員が考え、発言をすることにあります。そのため従来の講義ではありえないほど参加者自身の考えが反映される場になっています。今回は「牧場にお

けるチェックポイント」、「牧場で発生した問題」のテーマに基づき開催されました。

本会福岡支所南九州事務所武田副審査役がコーディネーターとなり、大隅支所、志布志支所、種子島支所、栗野事業所、南薩CSの5会場で計21名の参加者が集まりました。塾もそれぞれの会場ごと、参加者ごとの考えが反映された内容となり同じテーマでもまるで違った展開を見せる結果になりました。

参加者同士でお互いの牧場についての悩みを話しあったり、自身の牧場での改善に関する経験談もあり、牧場同志の交流の場にもなっていました。

今回の参加者からは「参考になった、今回話し合った内容を今後の経営に生かしたい」「今後も継続的に続けてほしい」といった声が多く聞かれました。



- 主催
鹿児島県酪農農業協同組合
- 参加人数
21名
- コーディネーター
本会福岡支所南九州事務所
武田副審査役

福島県酪農協より

復興牧場安全祈願祭&報道記者発表会を開催

- ・国・県・農林中央金庫の支援により復興牧場建設
- ・避難休業酪農家5戸が共同で設立した農業生産法人(株)フェリスラテが、年間生乳生産量5,000tを目指す!!

7月22日(火)に、福島市内において、復興牧場安全祈願祭及び報道記者発表会がおこなわれました。

安全祈願祭は、復興牧場建設地の福島市土船(福島市内の西部)で、地元 貴船神社の宮司をお迎えし、これから始まる復興牧場建設工場の安全を出席者一同で祈願しました。

安全祈願祭当日は、復興牧場建設工事を請け負ったパナソニック環境エンジニアリング株式会社代表取締役社長をはじめ、復興牧場の設計業務を委託した設計事務所、これから復興牧場を運営していく(株)フェリスラテ取締役一同、農林中央金庫、福島県、福島市、JA新ふくしま、(株)JA新ふくしまファーム、全酪連、地元土船区の役員、県酪農協役員職員総勢50名程の出席のもと祭事が執り行われました。

平成25年度事業の遅れの影響で、建設工事自体も若干の遅れはありますが、来春からの600頭規模での牧場運営開始を目指して、着々と準備を進めております。

また、午後からは福島市の酪農会館において報道各社を集めての復興牧場報道記者発表会をおこないました。地元テレビ局をはじめ、地方

紙、全国紙、農業専門誌等20社近くの報道陣を前に、酪農組合、農林中央金庫、(株)フェリスラテの三者から事業説明をし、報道記者からの質問に対応いたしました。(株)フェリスラテ社長の田中さんからは、「今回の復興牧場は、福島県酪農復興の天王山という気持ちで取組んでいく」という強い気持ちが述べられました。

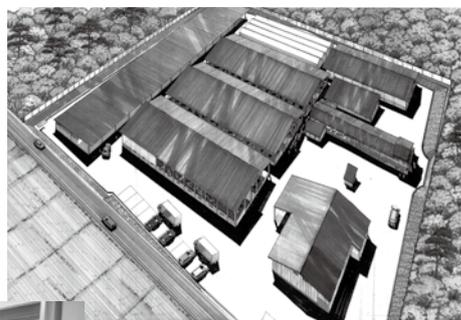
また、今回の復興牧場事業では、計画の早い段階から農林中央金庫と綿密な相談のうえ事業を進めてきた背景も有り金融面で多大なご支援を頂いております。以下に農林中金支援をご紹介します。

- 東北農林水産業応援ローン(事業補助残及び導入資金に対して長期低利融資)
- 東北農林水産業応援ファンド(アグリビジネス投資育成(株)を通じ(株)フェリスラテに対して経営開始時の運転資金として出資)
- リース料助成(リース総額の10%助成)
- 非金融支援(大規模共同経営の習得に向けた人材育成費助成)

(W.H)



安全祈願祭



牧場完成予想図



記者会見の様子



(株)フェリスラテ取締役一同

仙台
支所発

平成26年度役員研修会開催される — 酪農政治連盟東北ブロック協議会 —



左から佐々木
会長、富澤
長補佐、齋藤
幹事長



会場の様子

去る9月8日(月)、日本酪農政治連盟東北ブロック協議会(会長:佐々木勲岩手中央酪農業協同組合代表理事組合長)の平成26年度役員研修会が、山形県天童市にて行われました。

研修会は、講師に農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課 富澤宗高課長補佐、日本酪農政治連盟 齋藤博幹事長を迎え、総勢29名が参加しました。富澤課長補佐は、平成27年度予算概算要求と酪農・乳業を取り巻く課題を中心に講演し、齋藤幹事長はTPP(環太平洋経済連携協定)の経過を中心に酪農情勢について講演しました。

その後行われた意見交換会では、出席者から、27年度予算概算要求が前年に比べ500億円余り上乗せされていることに感謝しつつも、機械等のリース補助だけでなく、既存設備

の増改築や更新、規模拡大に対する補助

を手厚くし、酪農経営が継続できる施策を望む声や、自給飼料増産を謳うのであれば耕畜連携の飼料米やWCSの活用は大切であるが、土地整備や自給飼料生産に係わる補助を手厚くしてほしい、現行1/2が慣例的に上限とされている補助率のアップを検討できないかなど要望があげられました。

酪農業界を取り巻く環境が未だかつてない厳しい状況である今、どのような施策を打つかが重要であり、生産基盤維持のために若手後継者や中堅酪農家にやる気を起こさせる思い切った施策が必要との意見が多く聞かれました。

(I.M)

大阪
支所発

兵庫県の組織整備が新たな展開に!

兵庫県の酪農関係者が、過去の組織整備の経験乗り越えて、新酪農協の設立に動き出しました。去る8月20日(水)に設立発起人15名が参集し、これまで組織整備の中心的役割を担ってきた塩見忠則県酪連会長が、「長年の懸案であった組織整備が新たな組合の設立という方向でまとまった。協力と理解を得て実現に向け取

り組みたい」と挨拶されました。発起人会議では発起人会会長に丸尾建城氏が、副会長に木戸卓仁氏と鳥井俊廣氏がそれぞれ就任し、規約を承認しました。丸尾会長は、新組合の設立は平成28年4月を目標としたいと宣言されました。

また、9月8日(月)には発起人会規約に盛り込まれた作業部会が開催され、部会長に市川県酪連参事が就任し、事務局が作成した目論見書(案)を検討して承認されました。これを受けて今後、発起人会が開催され目論見書(案)が審議・承認される運びとなります。

作業部会では、定款(案)や事業計画(案)等の新酪農協の主要な骨子が協議されていくこととなります。

(S.T)



▲ 塩見県酪連会長



▲ 丸尾発起人会会長



経営主の恒夫さん(左)と後継者の聖太郎さん(右) ▲

No.257
薄葉恒夫牧場
栃木県那須町

徹底した繁殖管理と後継牛育成の実践

地域の紹介

今回は栃木県那須郡那須町の薄

葉恒夫牧場をご紹介します。那須町は栃木県の最北端に位置しており、東京―仙台間のちょうど中間となります。町の北西部には那須連山の主峰、茶臼岳がそびえ、茶臼岳の麓には1,000年以上の歴史を持つ日光国立公園「那須温泉郷」があり、観光の名所として広く知られています。那須連山の高原地帯には冷涼な気候、傾斜地を利用した酪農業が盛んであり、本州一の酪農生産地帯を形成しております。那須連山―八溝山地の間に位置する町の中央、南東地区には水田が広がっており、また八溝材で知られている林業も盛んに行われております。



▶ 牧場全景

ご紹介する薄葉牧場は南東部の芦野・伊王野地区にあります。芦野・伊王野地区は



旧奥州街道の宿場町、城下町として古くから発展し、源義経にゆかりのある史跡が多数点在するほか、松尾芭蕉の俳句にも詠まれている遊行柳、御殿山があり、歴史的にも重要な地域となります。

薄葉牧場が所属する酪農とちぎ農業協同組合は、生乳出荷戸数486戸(平成25年度末)、生乳生産量215,982t(平成25年度実績)となっております。

牧場の概況

家族構成は経営主の恒夫さん(56)、奥さんの文子さん(56)、恒夫さんのご両親の芳雄さん(78)とミサさん(78)、三女の瑠さん(29)、そして長男で後継者の聖太

郎さん(27)の6人家族です。現在、経産牛60頭、育成後継牛35頭(うち10頭は町内の放牧場に預託)を飼養しております。平成25年度の年間生乳出荷量は516tです。

牧場の作業は恒夫さんが乾乳牛、疾病牛、哺育牛管理と搾乳を、文子さんが搾乳を、聖太郎さんが牛舎管理全般を担当しております。堆肥処理は恒夫さんと聖太郎さんで協力して行っており、そのほとんどは近隣農家と稲わらとの交換で散布を行っております。

薄葉牧場は沢の一番奥に位置している立地条件もあり、飼料については濃厚飼料、粗飼料含めてすべて購入飼料で賄っております。

牧場の歴史

昭和38年に先代の芳雄さんが1頭のホルスタイン牛を飼い始めたところから薄葉牧場の酪農経営がスタートしました。それ以前はこの地域では一般的であった稲作、林業を主とする複合経営農家だったそうです。昭和52年、恒夫さんは栃木県畜産研修所を修了し、そのまま就農する予定でしたが、折

しも生乳の生産調整が行われる直前で酪農情勢が不安定であったことから、急遽、運送会社に就職され、その後すぐに奥さんの文子さんと結婚されます。恒夫さんは平成2年春に13年間勤めた運送会社を退職し、就農。その後、半年かけて現在のフリーストール牛舎(2列、47ストール、アプレストパーラー併設)を、近隣酪農家の協力も得ながら、ご自身で建設されます。ここで、運送会社の退職金を原資にして、北海道から初妊牛15頭、県内から離乳直後の育成牛10頭の計25頭導入し、規模拡大を図りました。その後、平成7年に堆肥舎・糞乾施設を、平成9年に育成舎を、平成13年に機械庫・乾乳牛舎を、そして平成24年に新しい堆肥舎をそれぞれ建設し、施設の充実を図ってきました。また、平成24年に後継者の聖太郎さんが就農、現在に至ります。

カウコンフォートの実践と繁殖管理

薄葉牧場では「牛を大事に、長持ちさせる」ことをモットーに、カウコンフォートを充実させ、牛がどのようにしたら快適に過ごせることができるかを、組合の指導担当者と相談しながら追求してきました。具体的には1. 濃厚飼料給与量の適正化、2. ベッド・通路管理の徹底、3. 定期的な削蹄、4. 疾病牛の個別管理などが挙げられます。ベッドは朝夕2回除糞、オガの追加を行い、牛が快適に休める環境を整え、また、通路にはオガ粉を厚く敷いて牛が移動する際にすべらないよう工夫しております。フリーストール牛舎であるため、牛の脚・蹄の管理には非常に



薄葉さん親子と酪農とちぎ 齋藤係長



飼料タンク



搾乳牛舎

長命になる部分につながってきていると感じています。

また、恒夫さんは那珂川牛群検定組合の組合長を務めており、ご自身も検定結果と繁殖カレンダーを積極的に活用し、繁殖の管理に取り組んでおります。「酪農家にとって繁殖管理が一番重要。特に、観察機会を増やして発情発見率を上げることが重要であり、除糞をしているとき、エサ押しをしているとき、休憩しているときなどに牛をよく観察することで繁殖成績



繁殖カレンダー



育成牛舎

は大きく改善できる」と恒夫さんはおっしゃいます。薄葉牧場の繁殖の取り組みは乳牛の生産成績の最適化、後継牛確保等経営基盤の強化に大きく貢献しております。

育成後継牛の重要性

上述の繁殖への取り組みの結果、薄葉牧場では一般の成牛・育成牛よりも多くの後継育成牛を飼養しております。飼料費が高騰するなかで育成牛頭数の増加は飼料費の増加につながりますが、恒夫さ

んはそれ以上に「メリットのほう大きい」とおっしゃいます。「牛群の中には産歴の高い牛、脚の痛い牛、体細胞数の高い牛など必ずしも万全の状態でない牛が必ずいる。後継牛が十分にいるということとはそのような牛の代わりになる牛がすぐにいるということ、野球に例えて言うならば1番から9番バッターまでいつでもクリーナップを揃えることができるということ。健康で作業性の良い牛を揃えることができるのは作業上でも利点が大きいです。また、お産に事故は付きものですべての牛が順調に分娩し立ち上がっていくわけではないため、その保険としても後継牛はしっかり揃えておく必要がある」とのこと。厳しい酪農情勢下にあってもしっかりと後継育成牛を確保することが長期的な視点でもみて経営基盤の強化につながっていることが窺えます。

今後の目標

後継者の聖太郎さんが就農して2年が経過しましたが、薄葉牧場としては現状の厳しい酪農情勢、

土地の制約もあることからこれ以上の規模拡大は今のところ考えていないとのこと。厳しい酪農情勢を乗り越えるためのリスク分散の1つの方法として、労力・コスト削減のために育成牛預託の継続的な利用を検討しており、預託牛（薄葉牧場では未經産牛にはF1、経産牛にはホルを種付けしている）については積極的に和牛の受精卵移植を行っていきたいとのこと。また、飼料高騰対策、地域の耕作地の維持の観点から、将来的には自給飼料生産を再開して経営基盤の安定を図っていききたいと今後の目標についてお話し下さいました。

最後に

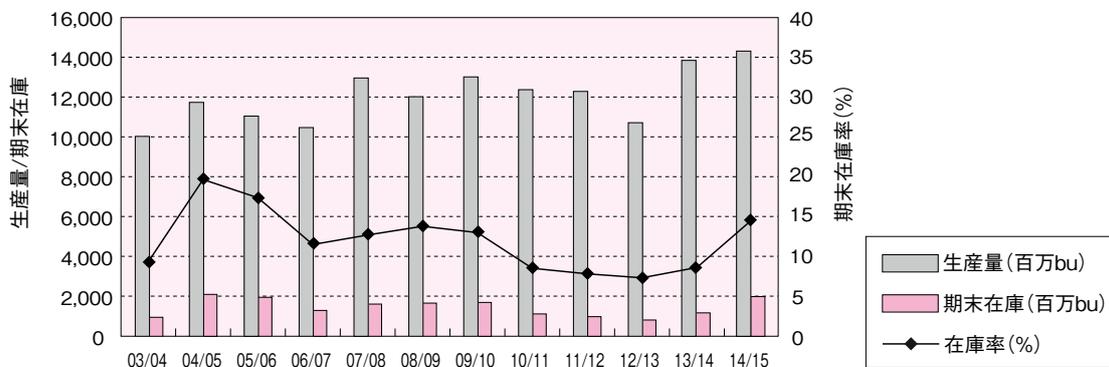
ご多忙の中、快く取材に応じていただいた薄葉さんに感謝申し上げます。経営主の恒夫さんと後継者の聖太郎さんがお互い真剣に意見を出し合いながら、牧場の将来を見据えているところに大変頼もしさを感じました。

薄葉牧場の今後ますますの発展とご活躍をお祈り申し上げます。

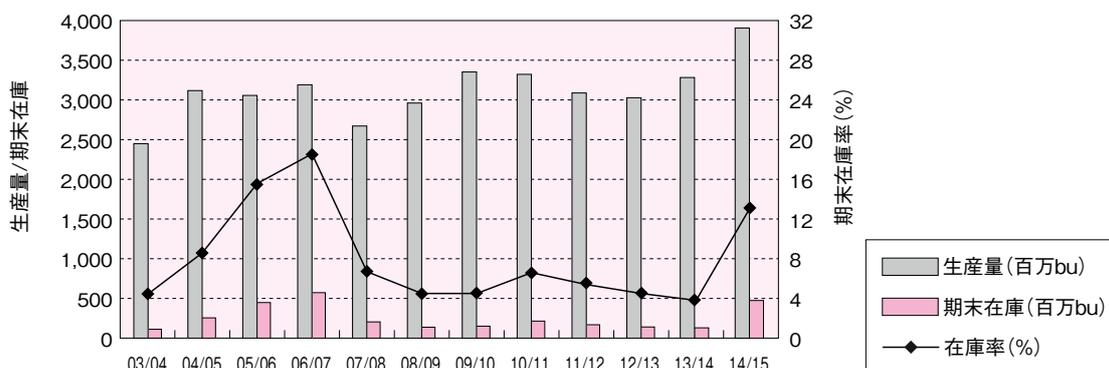
原料情勢 平成26年9月

9月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.4百万) エーカー、単収158.8(158.8)bu/エーカー、生産量139億2,500万(139億2,500万) bu、総需要量136億(136億) bu、期末在庫11億8,100万(11億8,100万) bu、在庫率8.7(8.7)%。
	【14/15年産】 作付面積91.6百万(前月91.6百万)エーカー、単収171.7(167.4)bu/エーカー、生産量143億9,500万(140億3,200万) bu、総需要量136億500万(134億3,500万) bu、期末在庫20億200万(18億800万) bu、在庫率14.7(13.5)%。
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は、引き続き天候が良好に推移し、改めて豊作の期待が膨らんだ。8月下旬には4年振りの安値水準による警戒感から揉みあいの展開が続いていたが、単収の上方修正発表から相場は軟調に推移し、350¢を切る値動き。南部と東部では9月中旬から収穫が始まる見通し。340¢を割り込むと生産農家の採算が厳しくなると言われており、今後は底堅く推移していくものと思われる。
9月11日発表 米国農務省 大豆需給予想	【13/14年産】 需要面で増加があり、期末在庫1億3,000万(1億4,000万) bu、在庫率3.8(4.2)%
	【14/15年産】 需給両面で増加があり、期末在庫4億7,500万(4億3,000万) bu、在庫率13.3(12.1)%
大豆粕相場動向	シカゴ大豆相場は、作付面積、単収、生産量ともに史上最高の数字が見込まれており、引き続き値下げの局面が続く。ただし、既に豊作見込みで相場が動いている可能性もあり、下げ幅は限定的になることも考えられる。国産大豆粕について、生産量は例年並みの低位安定。輸入品は4-6月期の輸入量が前年比20t増となったものの、今後は減少見込みであり、冬場に向けて輸入品の在庫品薄が懸念される。主な輸入元である中国では、養豚業が回復し需要は戻りつつあるものの、軟調なシカゴ相場に合わせ価格も緩みつつある。
糖糠類	国産フスマは発生量・需要量ともに減少し、需給バランスは取れている。冬場に向け発生時期を迎えるが、他品目価格が軟調に推移していることから需要は増加せず軟調に推移する見込み。グルテンフィードは発生量・輸入量ともに増加し、需給は緩和している。今後は、発生量の減少が見込まれることや輸入数量減予想から需給は徐々に締まってくると思われる。フスマもグルテンフィードも内航船確保の問題から遠隔地での受け渡しには注意が必要。
海上運賃	鉄鉱石のスポット価格による輸出攻勢により荷動きは回復傾向。南米、北米東岸での新穀輸出を控え、他水域からも船腹がシフトしてきており、稼働可能船腹は減少している。海上市場は強気基調であり、今後運賃は上昇する可能性がある。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢 平成26年9月

北米コンテナ船 フレート	北米西海岸での労使交渉について、新たな協定締結には未だに至っていない。7月からの閉鎖も想定し、6月中に貨物量が急増したため、現在も港湾での混雑やシャーシの不足が発生している。
ビートパルプ	【米国産】14年産作付が終了。産地では冷涼な気候により作付が遅れ、かつ生育期の降雨による単収減予想。生産量はシーズン開始前の予想よりも下回る見込み。 【中国産】国内向けの需要が増えており、14年産の輸出数量はほぼゼロで推移するという予想が多数を占める。
アルファルファ	【米国需要動向】11年までは日本が輸出量トップだったが、12年にUAEに抜かれ、13年に中国に抜かれ第3位となった。14年産は、産地価格高騰によりUAEが他国から輸入しているため伸びは少ないものの、中国は昨年を上回るペースで推移している。産地価格が軟化すれば、すぐに増えるだけの需要は十分にあるため、今後も注意が必要（下記表参照）。
	【ワシントン産】産地では4番刈の収穫が進む。雨当たり被害は1番刈で1割、2番刈で2割、3番刈で5～6割程度発生。湿度も高くなり始めたため、色あせが目立つスタックも発生している。ローグレード品や雨当たり品は多少の価格軟化も見られるようだが、期待されるような下げ幅には至っていないとも伝えられている。
	【オレゴン産】産地では2番刈の収穫が終了。雨当たり被害はクリスマスフォールズの1番刈で1割以下、2番刈で1～2割だが、クリスマスバレーは1番刈の5割、2番刈の6～7割と深刻な状況。
	【ユタ産】雨当たり被害は1番刈はほぼ無かったが、2番刈は一部発生。産地では3番刈の収穫が進んでおり、今のところ雨当たり被害は発生していない模様。
	【ネバダ産】産地では3番刈の収穫が進む。1番刈で4～5割、2番刈で5割の雨当たり被害が発生した。ノーレイン品の殆どはBIGベール原料と伝えられている。
【北カリフォルニア産】産地では5番刈の収穫が開始。湿度が高くなり始めているが、干ばつの影響か、例年に比べて見た目はきれいなスタックが多い模様。	
【インペリアルバレー産】14年産作付面積は前年比104%。産地では5番刈の収穫が終了し、一部では6番刈の収穫が始まっているが、一般的に成分・品質が落ちるサマーヘイと呼ばれる発生が中心となっている。8月末に発生した豪雨によりローグレード品や雨当たり品の発生が多く、ハイグレード品のタイト感さらには続く見込み。	
チモシー	【米国産】産地では2番刈の収穫が終了。1番刈は雨当たり被害が殆どなく、作柄が良好であったが、2番刈は4～5割の雨当たり被害が発生した模様。 【カナダ産】14年産は1番刈のハイグレード品の発生が限定的で、大半が中間グレード以下の品質となっている。
スーダン	【インペリアルバレー産】小麦の作付面積が減少したことから、早播きスーダンの作付面積は増加した。2回目の収穫が可能な早播きが増えていることから、生産量は昨年よりも増加見込み。早播き1番刈は茎サイズのバラつきがあまりなく、前半戦は過去3～4年で最高の作柄と言われているが、色抜け品・ライトカラー品の発生は少ない傾向。8月末の豪雨により、早播き2番刈や遅播きでは雨当たり被害も発生しているものの、収穫は終盤であったため価格に大きな影響はない模様。しかし、集荷済みスタックにもダメージが発生している恐れもあり、品質に注意が必要。
クレイン グラス	8/15時点での作付面積は前年対比100%。8月末の豪雨により、4番刈、5番刈の2割程度に雨当たり被害が発生している模様。産地価格は、韓国・日本向け共に引合いが強く、堅調に推移していると伝えられている。それでも禾本科牧草の中では相対的に割安感があるため、チモシーやスーダンからの切り替えも有益であると思われる。
ストロー類	14年産の米国産ストロー類は収穫が終了。トールフェスクは7割、ペレニアルライグラスは5割の雨当たり被害が発生している模様。価格は比較的軟調に推移しているとも伝えられているが、今後の推移は予想が難しい状況。
オーツヘイ	13年産は、雨当たり被害はあるものの大半が軽い雨で済んでいるため、ハイグレード品は限定的で、見た目がきれいなローグレード品が多く発生している。ハイグレード品の価格は強含みで推移しているものの、中間・ローグレードの価格は弱含みで推移しており、日本・韓国・中国向け全て荷動きが順調。中間グレードを中心に15年への繰越在庫が多数発生する見込みだったが、予想より余剰感はなくなりつつある。産地では14年産の生育が進む。どの産地でも4-5月に降雨があり、土壌水分に大きな問題はないと言われていたが、8月は降雨量が少なかった影響により単収減が予想されている。早い圃場では9月上旬から14年産の収穫が始まる見込み。

米国産アルファルファ年間輸出数量(MT) 米国農務省海外農務局資料より 2014年は1-6月

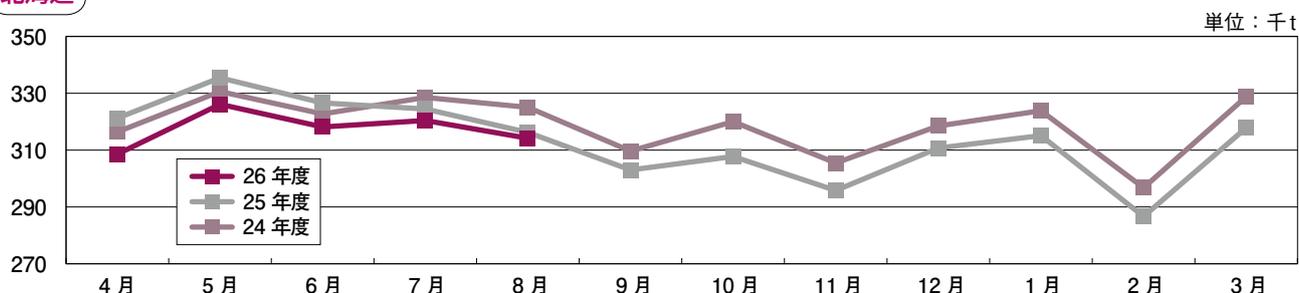
	2010年	シェア%	2011年	シェア%	2012年	シェア%	2013年	シェア%	2014年	シェア%
日本	540,365	37.4	585,186	36.5	452,056	25.7	448,391	22.7	223,091	25.9
UAE	412,901	28.6	527,456	32.9	596,715	33.9	662,552	33.6	173,363	20.2
中国	140,362	9.7	177,374	11.1	359,145	20.4	575,282	29.1	318,570	37.0
その他	349,407	24.1	312,385	19.5	350,729	19.9	287,852	14.5	145,170	16.8
合計	1,443,035		1,602,401		1,758,645		1,974,077		860,194	

生乳受託販売乳量

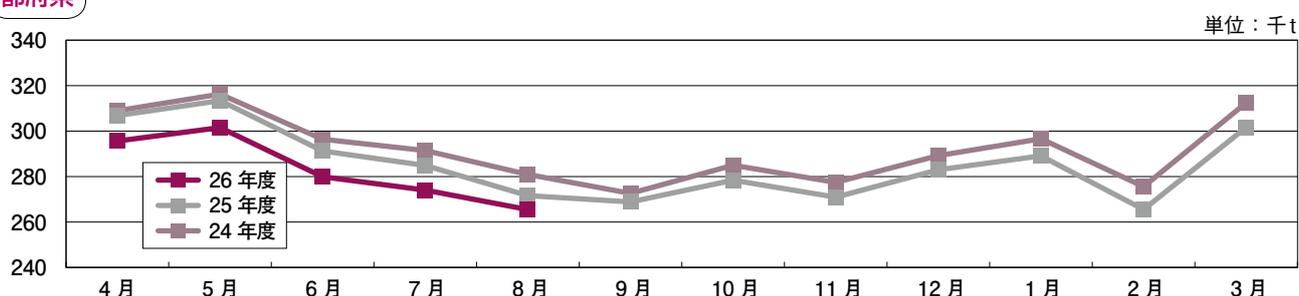
受託販売乳量

全国 579,651t で、前年同月比 8,189t(1.4%) 減少 都府県 265,476t で、前年同月比 6,140t(2.3%) 減少
 北海道 314,175t で、前年同月比 2,049t(0.6%) 減少

北海道



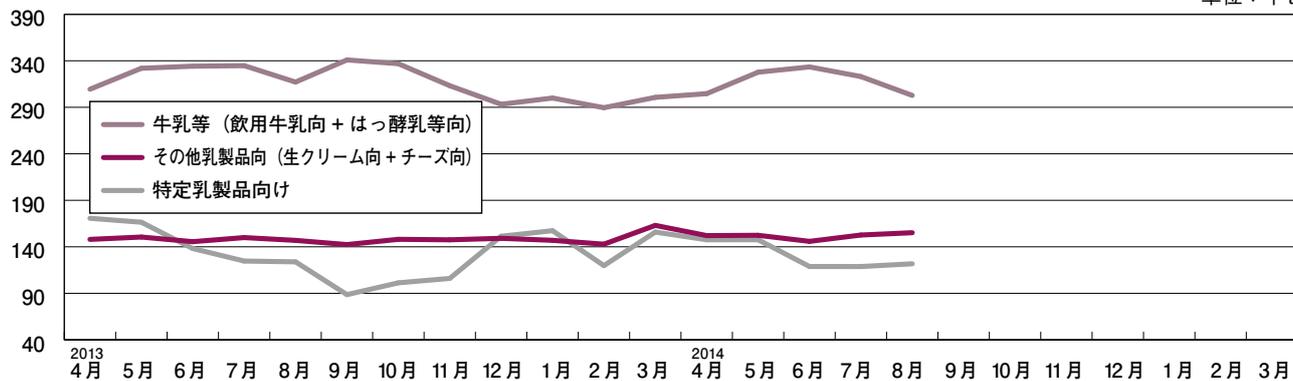
都府県



用途別販売数量

飲用向 264,823t で、前年同月比 8,560t(3.1%) 減少 チーズ向 39,636t で、前年同月比 1,501t(3.9%) 増加
 はっ酵乳向 37,933t で、前年同月比 5,784t(13.2%) 減少 特定乳製品向 121,741t で、前年同月比 2,098t(1.7%) 減少
 クリーム向 115,516t で、前年同月比 6,753t(6.2%) 増加

単位: 千t



各地の需給動向

- 【東北】生産は前年比 96.7%。需要は、逼迫が予想されたが、各乳業者とも処理が伸びなかった。しかし東北の生乳は北海道の置き換え需要等もあり、結果的には飲用牛乳向けは前年比 100.3%となった。その裏返しで、特定乳製品向けは前年比 82.2%と大きく減少した。
- 【関東】生産は前年比 98.0%。昨年の8月は猛暑の影響で大きく減少していた為、その裏返しで前年比は回復している。一方需要は、7月からの特売自粛等の影響からか、不振のまま推移し、お盆明けからは相当量の加工が発生した。その結果、飲用牛乳向けは 95.5%、特定乳製品向けは 116.3%となった。
- 【東海】生産は前年比 98%。需要は、大手・中小乳業ともに販売低調のまま推移した。飲用牛乳向け 96.1%、特定乳製品向け 138.3%。
- 【近畿・中国・四国】生産は近畿 95.7%、中国 97.5%、四国 98.7%。8月は冷涼な気候が続いたことから、中下旬は横ばいから増加傾向となった。処理は特売自粛や天候の影響から減少傾向。お盆明け以降は余剰感が増し、大手乳業を中心に加工が発生した。(飲用牛乳向け前年比: 近畿 94.9%、中国 94.3%、四国 101.1%)
- 【九州】生産は前年比 98.7%。台風の影響等で降雨・低気温が続く、生産は上ブレをした。処理は低調が続く、お盆より大手乳業中心に加工が発生した。その結果、飲用牛乳向け 96.1%、特定乳製品向け 113.7%となった。

用途別生乳処理量

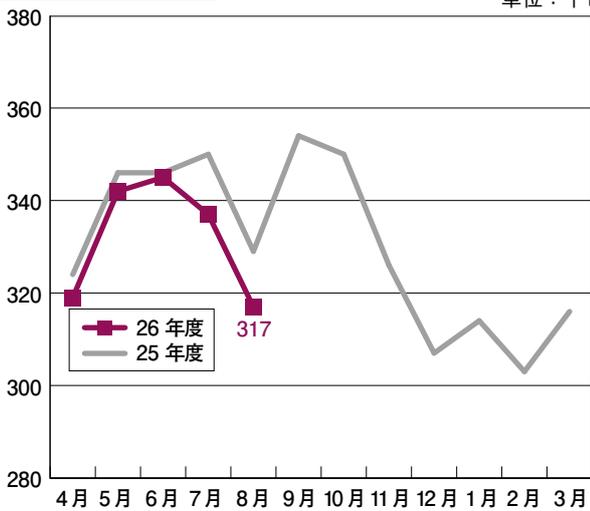
単位：千t

年月	生乳生産量	用途別処理量計							年月	生乳生産量	用途別処理量計						
		乳製品向									乳製品向						
		牛乳等向 ①	特定乳製品向 ②		その他乳製品向			牛乳等向 ①			特定乳製品向 ②		その他乳製品向				
クリーム向 ③	チーズ向 ④		クリーム向 ③	チーズ向 ④	クリーム向 ③	チーズ向 ④	クリーム向 ③		チーズ向 ④								
2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44	2014. 4月	627	622	319	303	148	155	112	43
5月	671	666	346	320	167	153	107	46	5月	650	645	342	303	148	155	112	44
6月	638	633	346	287	141	147	105	42	6月	619	614	345	269	120	149	108	41
7月	632	627	350	278	126	151	109	42	7月	618	613	337	276	120	156	113	43
8月	608	603	329	274	127	147	107	40	8月	600	595	317	278	126	153	111	42
9月	593	588	354	235	91	144	107	37	9月								
10月	608	604	350	253	104	150	109	40	10月								
11月	588	583	326	257	108	149	111	38	11月								
12月	616	612	307	305	153	151	114	37	12月								
2014. 1月	626	622	314	308	158	150	103	47	2015. 1月								
2月	573	568	303	265	121	144	102	43	2月								
3月	643	638	316	322	159	163	117	47	3月								
年度計	7,447	7,390	3,964	3,426	1,626	1,800	1,298	502	年度計	3,114	3,089	1,660	1,429	662	768	555	212

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

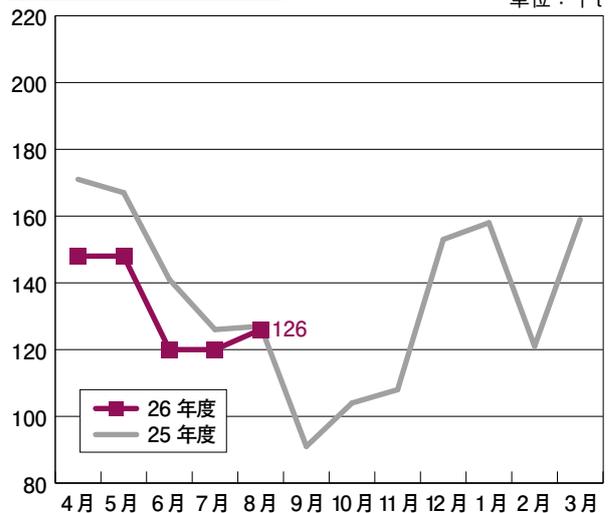
① 牛乳等向処理量

単位：千t



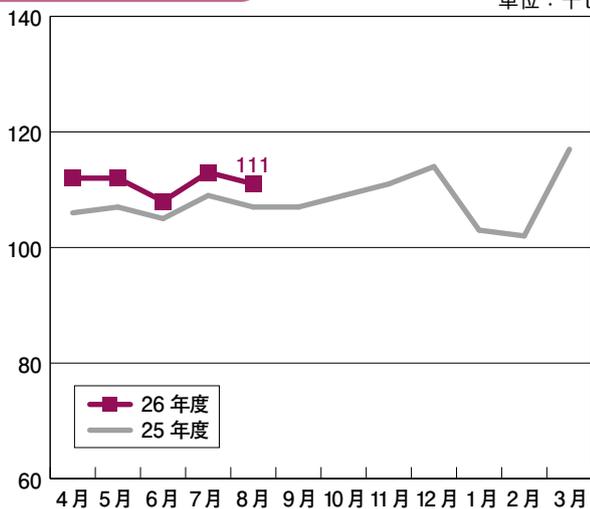
② 特定乳製品向処理量

単位：千t



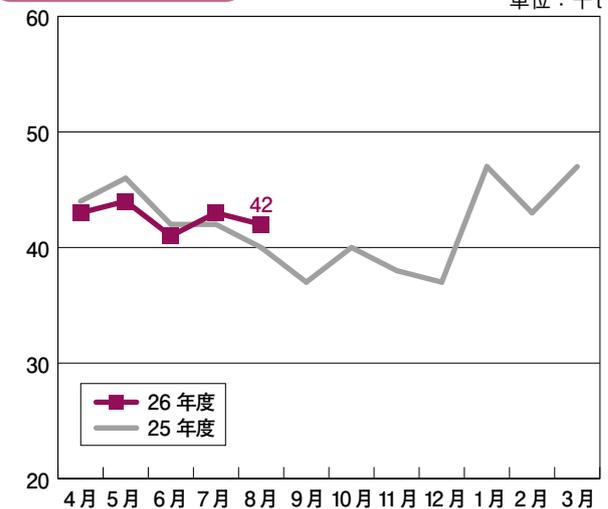
③ クリーム向処理量

単位：千t



④ チーズ向処理量

単位：千t



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

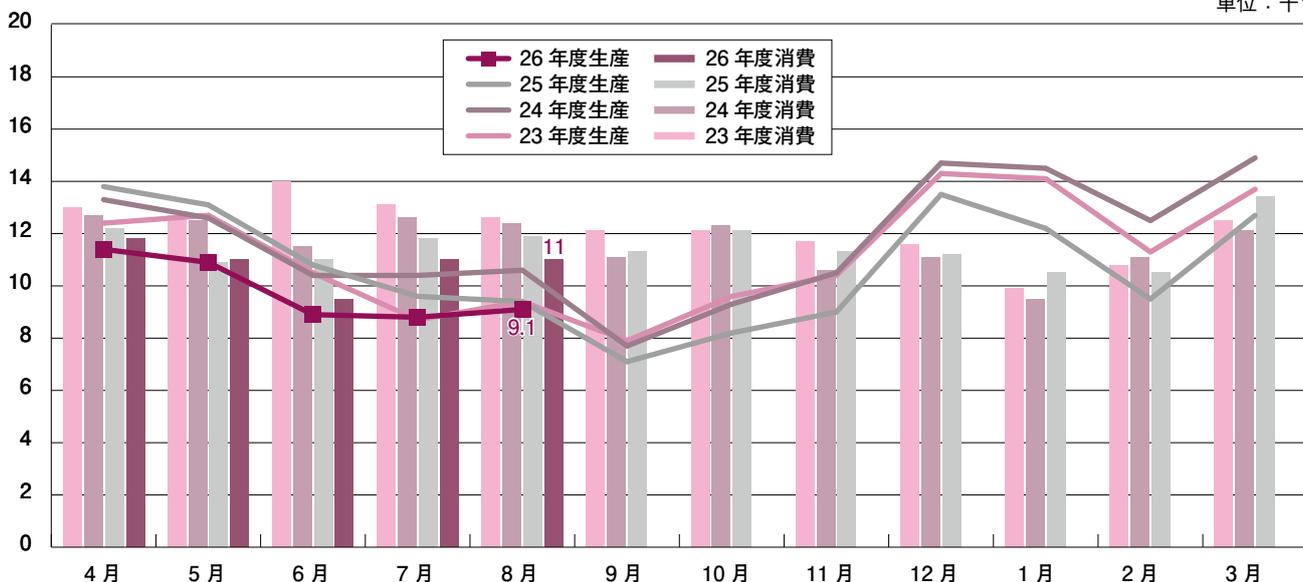
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1	2014. 4月	11.4	11.8	6.3	6.4
5月	13.1	10.9	7.0	5.5	5月	10.9	11.0	5.7	5.0
6月	10.8	11.0	5.7	5.8	6月	8.9	9.5	4.9	4.7
7月	9.6	11.8	5.1	5.8	7月	8.8	11.0	4.7	5.7
8月	9.4	11.9	5.1	5.7	8月	9.1	11.0	4.7	5.2
9月	7.1	11.3	3.6	5.0	9月				
10月	8.2	12.1	3.9	5.5	10月				
11月	9.0	11.3	4.2	6.2	11月				
12月	13.5	11.2	5.5	7.3	12月				
2014. 1月	12.2	10.5	6.5	4.9	2015. 1月				
2月	9.5	10.5	4.8	5.7	2月				
3月	12.7	13.4	6.0	6.9	3月				
年度計	128.8	138.0	64.3	70.5	年度計	49.1	54.3	26.2	27.0

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

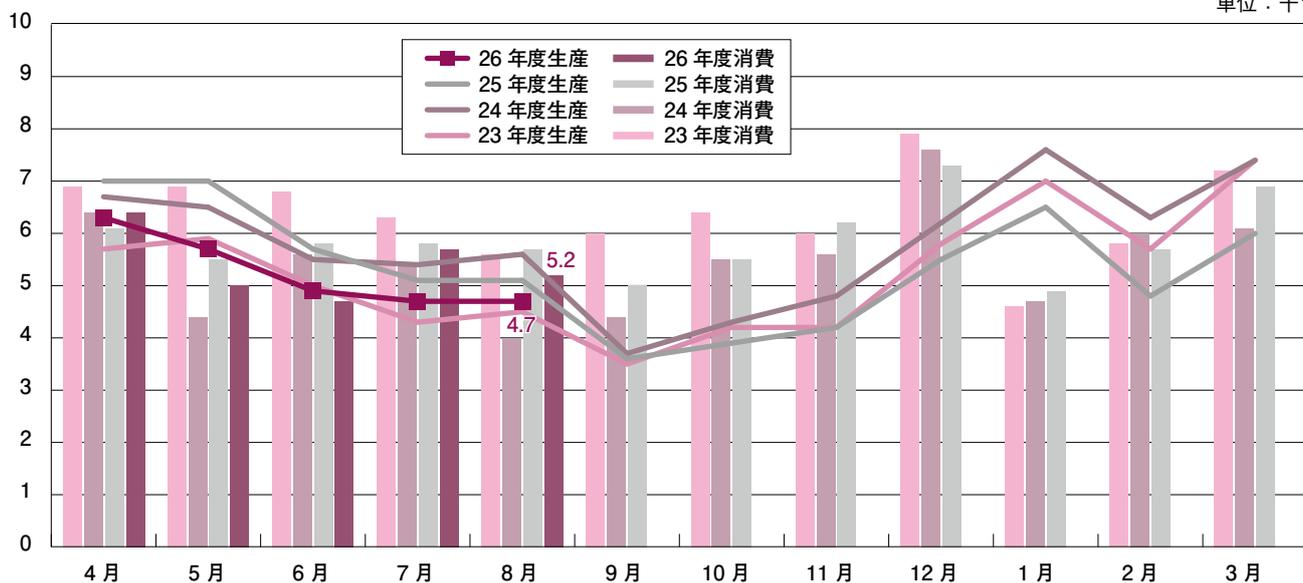
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t

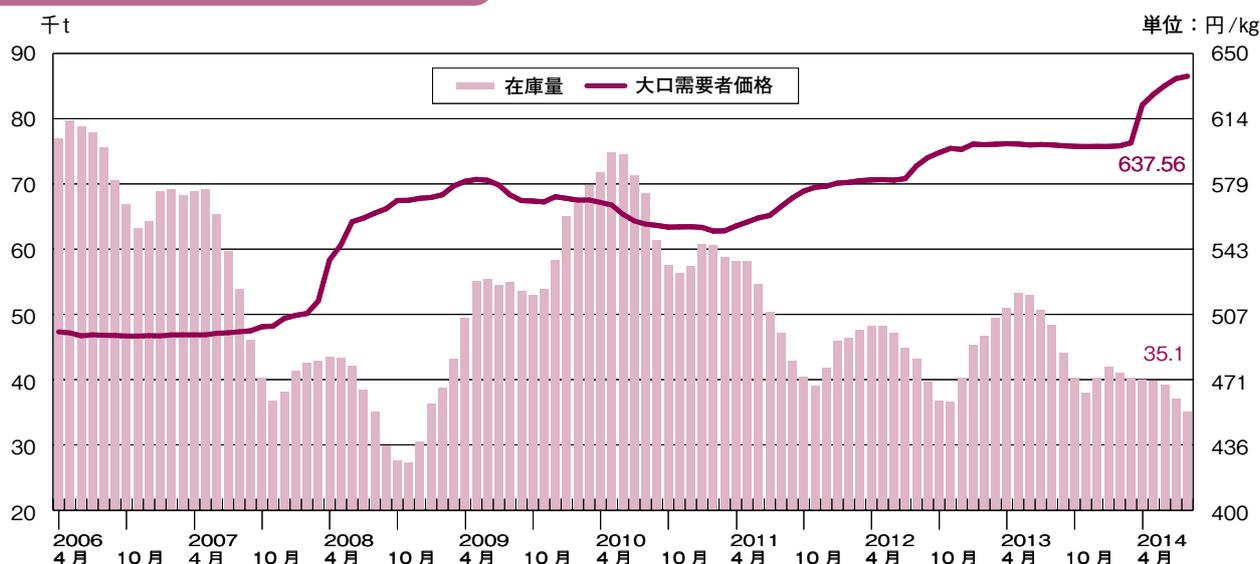


脱脂粉乳・バター国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

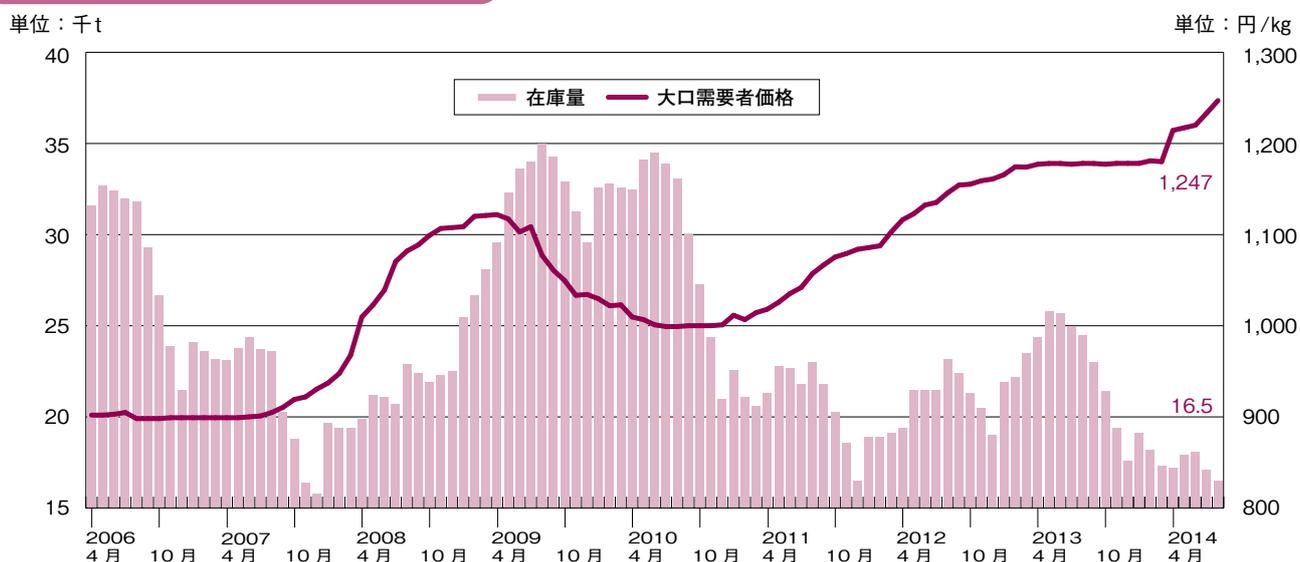
区分	バター		脱脂粉乳		区分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2013. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2014. 4月	17.2	1,214	39.9	621.83
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	17.9	1,217	39.8	627.73
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	18.1	1,220	39.2	632.42
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	17.1	1,233	37.0	636.30
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月	16.5	1,247	35.1	637.56
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月				
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月				
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月				
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月				
2014. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2015. 1月				
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年度計	86.8	6,131	191.0	3,155.84

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移



バター 国内在庫・大口需要者価格推移



私たち全酪連は、 全国酪農青年女性会議協力のもと、 酪農業に対する理解を 深めてもらうべく、 PR活動を行います！

昨年は、10月からの飲用牛乳の値上げに際し、牛乳値上げの背景に生産コストの上昇があり、やむなく値上げせざるを得ない状況を説明した保冷エコバックとチラシを配布しながら全国29カ所でPR活動を行うことで、消費者の方へ値上げ後も変わらぬ飲用を呼びかけました。

今年は、**飼料高による経営悪化や後継者不足等により酪農家が減少していること、それにより生乳生産量が減少し、このままでは国産牛乳・乳製品が無くなるかもしれないこと**を消費者の方へ訴え、“国産牛乳を飲んで応援していただく”ため、牛乳専用保冷エコバックとチラシを街頭にて配布しPRします。

まずは、来たる10月29日(水)に、東京の有楽町駅前(東京都千代田区)にて街頭活動を行い、その後全国各地へ活動を広げていきます。

昨年の活動の様子



大井前委員長による街頭演説



鹿児島県の酪農家による街頭でのPR活動

今年の
チラシ

日本から国産の牛乳・乳製品が
無くなるかもしれません！

酪農家戸数は
年々減少して
います

日本から国産の牛乳・乳製品が無くなるかもしれません！

① 酪農家を取り巻く環境は今、こんなに大変

●生産コストの増加に加え、TPPなど将来への不安などから酪農家の廃業が続き、生乳を生産する地域の基盤は危機的な状況に直面しています。

年々減少する酪農家戸数



② 減少し続ける 生乳生産

●酪農家の減少を背景に、生乳生産量の減少が止まらない状態です。

生乳生産量



③ 穀物需要の変化 により飼料価格 が高騰

●環境問題への対応等を背景に、バイオエタノールの製造にトウモロコシ等が消費されるようになり、この10年程度で約1.5倍と大きく上昇しました。

飼料コストの上昇



④ 国際乳製品 市場では需要が 増えています

●世界の牛乳乳製品生産量のうち、輸出されるのは7～8%とごくわずか。また、新興国などでも需要が増えており、競争するため価格が高騰しやすく、国内での安定生産が必要です。

⑤ 子どもたちの食生活に 欠かせない牛乳

●牛乳には良質なたんぱく質や消化のよい脂肪分、豊富なカルシウムやビタミンA・B群など、子どもたちの成長に必要な栄養が詰まっています。

⑥ 酪農はこんなかたちで 社会貢献もしています

●酪農は、人が直接利用できない草や他産業の副産物を食料に変え、乳牛のふんを肥料として水田や畑に還元する循環型農業の軸を担っています。

だから酪農家は頑張っています。応援してください、
ゴクゴク国産牛乳!!

生乳需要基盤強化対策事業（生乳生産者需要確保事業） 独立行政法人 農畜産業振興機構後援

穀物需要の変化
により飼料価格
が高騰！

国際的に
乳製品需要は
増加しています

酪農家は頑張っています。
応援してください。
ゴクゴク国産牛乳!!

**全酪連は、今後も消費者の皆様
に日本の酪農をより知ってもらい、
より国産牛乳を飲んでいただく活動に
取り組んでいきたいと考えています。**

長崎県に続き、岡山県でも 後継者支援の研修会を開催

「後継者支援チーム」活動報告

8月28日(木)、29日(金)に、おおよま酪農業協同組合と協力し、若手後継者を主な対象とした研修会を開催いたしました。

6月の長崎県に続き、今回は岡山県内での開催となりました。28日は津山市において、主に若手経



岡山会場

営者の方々を中心に40名、29日は岡山市において、県内関係機関の職員の方々を中心に40名が参加されました。

講師は前回同様、本会購買部酪農生産指導室の丹戸靖課長代理、同じく購買部酪農技術研究所の猪



津山会場

内勝利研究員が務めました。

丹戸課長代理の講演では、まず冒頭で、親世代が子女に経営を継承させたがらないケースが多く見受けられるように、現在我が国の酪農情勢は非常に厳しい情勢におかれているが、世界の酪農に目を向ければ生乳は全く足りない状況であり、今を乗り切れば必ず酪農の必要性が遙かに高まることが説明され、その上で今後の経営を安定化させるための具体策について考察が行われました。

続く猪内研究員の講演では、酪農ヘルパーや牧場経営者としての自らの経験に基づき、正しく設計された農場造りのための実践的な施策などについて説明がなされました。特に設備投資においては、二度、三度の投資は牧場経営に対し致命的なダメージを与えかねない

ことから、設備設計におけるトラブルシューティングについて、特に詳しい解説が行われました。

両名の研修終了後には、おおよま酪農協職員の方々を始めとする県内関係機関の方々と、後継者支援に関する意見交換会が開催されました。後継者に関しては、携わる経営の形態はもちろん、各人の性格、親子間の人間関係などが千差万別の状況であることから、支援体制の確立に向けて暗中模索の状況であり、当日の意見交換会においても、画一的な対策というものは見いだせませんでした。それでも、今後の酪農業の発展のためには、後継者への確実な経営継承は最も重要な具体策の1つとなつていきます。酪農業の発展を真摯に願う参加者から寄せられた忌憚のない様々な意見は、今後、本会が確固たる支援体制を確立していくための大きな参考となりました。

全酪連では今後も、酪農の安定と発展に少しでも寄与することを目標に、各地で今回のような研修会を企画いたします。

人事異動

新	旧	氏名
<p>■平成26年10月1日付異動発令</p>		
指導・企画部 指導組織課長代理	福岡支所 指導組織課長代理	吉村 薫 中村 宏行 石本 文樹
総務部 総務・広報課長代理	指導・企画部 指導組織課長代理	
福岡支所 指導組織課長	総務部 総務・広報課長	

北海道 乳牛産地情報

平成26年10月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

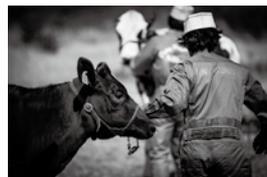
事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	27~32	→	9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計99.9%、累計96.6%、苫小牧管内月計101.3%、累計99.7%の実績。10月の初妊牛動向については、12月~1月の分娩中心。公共牧場での受胎は概ね順調であるとのことで、資源は例年並みとなっている。都府県からの購買も活発になる時期となるため、初妊牛価格は堅調に推移するものと思われる。
	初妊牛	48~54	▼	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	28~35	→	9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計98.5%、累計96.4%、中標津管内月計99.0%、累計96.7%の実績。10月の初妊牛動向については、12月~1月中旬分娩中心の荷動き。相場は上がり基調であり、F1腹を中心に高値で取引され、続いてホルズ選別腹、ホルズ腹の価格帯となるが、ホルズ腹は道内新規就農者などの購買があり、相場全体が底上げされる見込み。先月よりも購買客が多くなり、荷動きもより一層早くなるとされる。
	初妊牛	48~57	▼	
	経産牛	45~50	▼	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	27~34	▼	9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計101.0%、累計99.6%の実績。10月の初妊牛動向は、12月分娩中心。公共牧場からの下牧も始まり、資源はあると思われるが、9月下旬の段階で既に12月上旬分娩の荷動きが始まり、例年より荷動きは早いものと思われる。価格は、都府県の需要と道内の需要が重なりやや強含みで推移する見込み。育成牛は、例年よりも200頭ほど上場頭数が少ないとの情報があるため、今後、育成牛の価格上昇に伴い、初妊牛価格の高騰に繋がる可能性もある。
	初妊牛	50~56	▼	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	27~34	→	9月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計97.8%、累計97.6%、北見管内月計99.8%、累計99.1%の実績。10月の初妊牛の動向については、12月~1月分娩中心。毎年全道共進会後、都府県の荷動きが活発となる。分娩の腹としてはF1腹の需要が高いが、後継牛確保のためホルズ選別腹の需要も高くなっており、今後の価格に注視が必要。
	初妊牛	50~55	▼	
	経産牛	40~45	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	27~33	→	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は99.5%、累計で97.9%の実績。10月の初妊牛動向については、12月~1月初旬分娩中心。放牧地からの下牧が始まるため、資源はあると思われる。道内に限らず、都府県も生乳生産量の増産対策が継続的に行われているため購買需要はより一層高くなり、相場は堅調に推移する見込み。多少の地域差はあるが、ホルズ選別腹と和牛受精卵腹の需要が高く、相場も通常より高値で動くことが予想される。
	初妊牛	50~56	▼	
	経産牛	45~50	▼	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

戦う男たち

今月の表紙は、「第5回酪農いきいきフォトコンテスト」(第43回全国発表大会にて開催)で入選に輝いた作品「戦う男たち」(山口県 藤井直良氏 撮影)です。息遣いと猛々しさを感じる作品で、酪農家さんはカッコいい!と思わせてくれる1枚です。



shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

▼夏から一気に冬になったかと思うほど肌寒くなってきました。今年には牛に優しい年になりそうです。▼会報に関するご意見・ご要望・投稿写真等があれば、以下のアドレスにメールをお願いします。

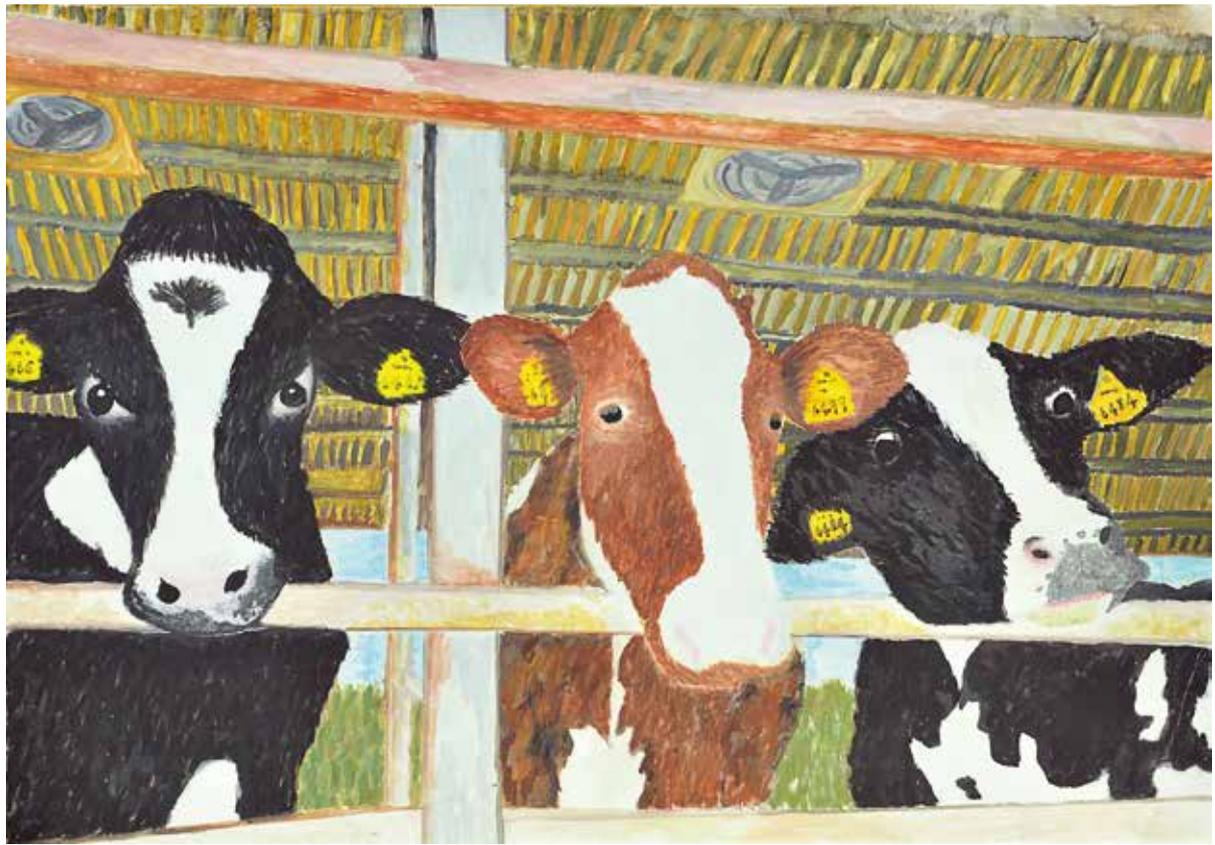
編集後記



平成26年10月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION
全酪連会報 10月号 No.589

●編集・発行人 中島 裕志郎
●発行 全国酪農業協同組合連合会
〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
TEL 03-5931-8003
http://www.zenrakuren.or.jp/



岡山大学教育学部附属中学校(西日本)2年 仲原 柚奈

今月の



入賞作品介绍



今月の入賞作品は、岡山大学教育学部附属中学校(西日本)2年の仲原柚奈さんの作品です。

3頭の牛さんの個性をうまく描き分けることができましたね。右側の牛さんが少し傾いていることで絵全体に動きが生まれています。牛舎内の屋根裏の様子など丁寧に根気よく描けていると思います。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第41回らくのうこどもギャラリー」で全国451点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議